

## 特集2

# ハンセン病への正しい理解を

「人権の世纪」といわれる二十一世紀において、一人ひとりが尊重されるよう、さまざまな人権問題に積極的に取り組んで参ります。

### ◎ハンセン病に関する経緯

ハンセン病のこれまでの歴史の中で、患者の方々の療養所などへの徹底収容をすすめた戦前、戦中の「無理い県運動」などで、県も国の隔離政策にかかわって参りました。

そのため患者の方々を家族から切り離し、故郷をも奪い、想像を超えた苦しみや悲しみを与えることになってしましました。また、この隔離政策により、ハンセン病が極めて感染力の弱い病気であるにもかかわらず、強い感染力を持つ病気であるかのような誤解を多くの県民の皆様に与え、偏見や差別を助長する結果となりました。

これらのことを見て反省し、去る六月十九日に、荒木県議会議長と菊池恵楓園、待労院診療所をお訪ねして、入所者の皆様に心からお詫びいたしました。

県としましては、これから、患者・元患者の方々の御意見をよく聞き、これを基本に据えて取り組みを進めて参りたいと思います。とりわけ、ハンセン病への正しい理解のための普及啓発をより一層進め、いわれのない偏見や差別の解消を図り、患者・元患者の方々が故郷との絆を取り戻すことができるよう努めて参りたいと考えています。県民の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

熊本県知事 潮谷義子

◎ハンセン病を正しく理解していただくために

### 【ハンセン病は治る病気です】

治療法が確立されている現在では、早期発見と早期治療で、障害を残すことなく、外来治療で比較的の短期間で治ります。

### 【遺伝する病気ではありません】

むかしは、日ごろから接触の多い親や祖父母から乳幼児などへ感染することがあり、遺伝病の一種と誤解されてきましたが、「らい菌」という細菌による感染症であることがわかつています。

### 【感染力はとても弱い病気です】

ハンセン病療養所で働いていた職員でハンセン病になった人は一人もいないことからもわかるように、日常生活では感染しません。「らい菌」はとても感染力の弱い菌なので、人の体内に侵入しても、栄養状態などがよければ発病することはほとんどありません。治った後も、皮膚や末梢神経の障害により外見上の変形が後遺症として残ることもあるため、いつまでも病気のままだ

- 菊池恵楓園入所者による盆栽展への協力
- 啓発パンフレットの作成
- ハンセン病を正しく理解する週間(六月二十五日を含む一週間)でのパネル展の開催
- 里帰り事業など
- 小中学校・高校での教育、啓発
- 県立図書館などの視聴覚教材の整備
- 県職員・教職員への啓発などに取り組んでいきたいと考えています。
- 県で作成した啓発パンフレットは、各地域振興局・保健所でもご覧になります。



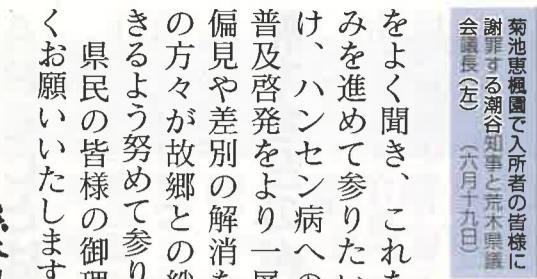
由布菊池恵楓園長を講師に招いて県庁で行われた県職員研修会(6月26日)

### 【連絡先】

菊池恵楓園 (〇九六一四八一一三一)



菊池恵楓園の夏祭り(昨年8月)



菊池恵楓園で入所者の皆様に謝罪する潮谷知事と荒木県議会議長(左)(六月十九日)